

「KSTAC 穂高 2017」I 隊 西穂高 独標コース 記録

- 日時 : 7月 28日 (金) ~ 7月 29日 (土)
- メンバー : 23M 岩永省吾 (L) 21M 安井 昭夫 23M 山本 健二
- 記録 :

7月 28日 (金) 曇り — 穂高ロープウェイ西穂口から西穂山荘 —
西穂口発 (14:00) → 小休止 (15:00~15:15) → 小休止 (15:45~15:50)
西穂山荘着 (16:00) 西穂山荘 泊

7月 29日 (土) 曇り — 西穂山荘から独標往復後上高地 小梨平へ —
西穂山荘発 (05:25) → 丸山 朝食 (05:50~06:10) 岩永引き返し [07:15 → 山荘 07:30]
→ 2600m 地点にて安井さん先行し山本は独標直下にて待機 (06:45)
独標直下 安井さんと山本合流 (07:35) → 丸山 (08:10~08:20) →
西穂山荘 岩永と合流 (08:40~09:30) → 小休止 (10:25~10:35) →
小休止 (11:30~11:35) → 田代橋 (12:10) → 上高地小梨平

● 感想 (岩永)

天候が心配だったが、行動中、幸いにも雨に降られなかった。しかし、新穂高へ向かう途中の道は、その日の 6時半まで土砂崩れのため通行止めだったとのこと。西穂山荘では同室の人がものすごい「いびき」で、近くに寝ていた人が小屋番に連絡して別室へ移ってもらいなんとか眠れた。丸山での待機中、シャッター押し屋さんを何回勤めたことか。来る人の話を面白く聞いた。まるで、NHKの「ドキュメント 72時間」のようだった。自分では理解していたように登りは全くダメで、下りは何とかコースタイムで下れて、13時頃には小梨平に着くことができた。ケショウヤナギの柳絮が舞っていた。

感想 (安井)

お世話になり有難うございました。新穂高温泉もケーブルも西穂独標コースも初めてでした。楽しかったです。独標から下を覗くことができただけで満足した次第です。数年前から足場と足場の間が 30cmでも足が前に出なくなり、バランスの悪さを感じていましたが、今回は、それを痛切に感じた山行でした。岩と岩の間を乗り移れないのです。特に下りは最悪でした。また、話には聞いていましたが、3年前の常念岳、2年前の奥穂高の時は、そんな感じなかった年配の山ガールの元気に改めて驚かされた次第です。山荘には、カラビナやザイルの準備をし、ヘルメット被った 30人ほどの団体、其処にも年配に見える山ガールが、大勢参加していました。山ボーイも、大勢見かけましたが、比率でみると 6対4くらいで女性上位かな。歩ける限りまた参加したいです。

感想 (山本)

最近では体力不足を自覚することが時々あり、山へ行くことへ不安を感じるようになってしまった。そこで今年の OB 会夏山の計画は慎重に行い、入山が容易でそこそこのアルペン的な雰囲気と景観を楽しめる西穂山荘をベースに独標を目指すこととした。当初は岩永君と二人で行く予定であったが安井さんが加わり心強くなった。台風の影響で天候が心配されたが雲が多かったものの結局雨は降らず、久しぶりのアルペンの眺望が楽しめた上に体力消耗も避けられる結果となった。しかしやはり自分のペースが遅くそのまま安井さんと二人で行くと独標からの下山タイムリミットに遅れる恐れがあった

ため自分は独標手前で待機することとなったのは残念であった。この様な体力的な問題はあったがやはり稜線上の景観は素晴らしく久しぶりに山の空気を肌で感じる事が出来た。これからは普段から体力減退に歯止めをかけようとしてまだまだ山に接していきたいと思った次第である。

